

令和2年度第1回企業セミナー事業報告



日時：令和2年8月6日（木）

14：30～16：30

場所：福岡市立心身障がい福祉センター
（あいあいセンター）7F 大研修室

参加者：34社 40名

講演：「精神疾患と自殺予防」

講師：福岡市精神保健福祉センター所長
本田 洋子 氏

今年度、第1回の障がい者雇用セミナーを8月6日に開催、福岡市精神保健福祉センター所長であり医師の本田先生に講演していただきました。

主な内容は、①精神疾患とは？ ②「うつ病」、「躁うつ病」の症状と「発達障がい」の特性・治療・支援、自殺予防、③従業員に対して企業がすべき配慮。

また、「職場で“死にたい”と言われたらあなたはどうしますか。」がサブテーマになっており、実際に行われるとはっとするワードですが、身近にいる友人や家族が悩みを抱えている当事者だったらどのように声をかけをすればよいただろうかと考えながら聞いていた方もいるのではないのでしょうか。参加のきっかけもテーマに関心があった方が多く、みなさん熱心にメモをとっていらっしゃいました。

私達を取り巻く職場環境は、日々変化し、メンタルヘルスに関する問題も増えています。

「繰り返す病気休職者は本人だけでなく周りへの影響が大きい」と先生のお話の中でありました。日頃の気配り、声をかけをすることで職場での心の健康づくりに繋げ、職場管理に役立てていただければと思います。

《参加者の声》

- ・ 講義を聞き、大事なことを再確認しました。サインを見逃さない、話を聞く、連携・協力、本当にこの流れが大事だと思います。常に頭の中にこの事を浮かべ、彼ら達に接していこうと思います。
- ・ メンタルに不調な社員を数名抱えており、話の中で当てはまる事象が沢山あったのでとても参考になった。
- ・ 少し具合の悪そうな職員と話し合っ（聞き取って）みます。体調が悪くて欠勤が続いている職員が気になっています。心の問題も含めて向き合ってみます。

（※アンケートより一部抜粋）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため入場前の検温、手指消毒、体調確認等、ご協力いただき感謝いたします。

今後の障がい者雇用セミナーも皆さまに安心してご参加いただけるよう努めてまいります。

担当者一同



令和2年度 第2回障がい者雇用セミナー事業報告



日時：令和2年11月10日（火）
14：00～16：30

場所：福岡市立心身障がい福祉センター
（あいあいセンター）7F 大研修室他

参加者：企業 5社 9名
大学・短大 6校 15名

内容：企業・学生・支援者交流会

第2回障がい者雇用セミナーを開催しました。

企業のブースを学生と支援者（学生相談や進路の担当者）グループが回る交流会形式で進行了ました。はじめに企業から会社紹介、障がい者雇用の取り組み等の説明をした後、企業・学生・支援者それぞれが質問を受ける形で情報交換を行いました。

企業にとっては障がいのある学生のことを知る機会となりました。また、学生にとっては企業、職種のイメージを広げる、支援者にとっては学生支援のための企業情報の収集の機会とすることができたようです。

大学新卒の障がいのある学生を雇用した実績がなかった企業からは、学生が職場体験実習に興味があることがわかり、今後の雇用の可能性の広がりを感じたとの意見がありました。同時に何らかの目標を持つ学生の意欲を感じたとの感想もありました。

支援者からは知らなかった情報を得られた、雇用形態の事情を聴くことができた、学生からは幅広い職種の話が聴けてよかった等、多くの意見がありました。

初めての試みでしたが活発に意見交換がなされる交流会となり、日頃交流が少ない企業と学生・支援者が互いのことを知り、今後の障がい者雇用に繋がる場となりました。

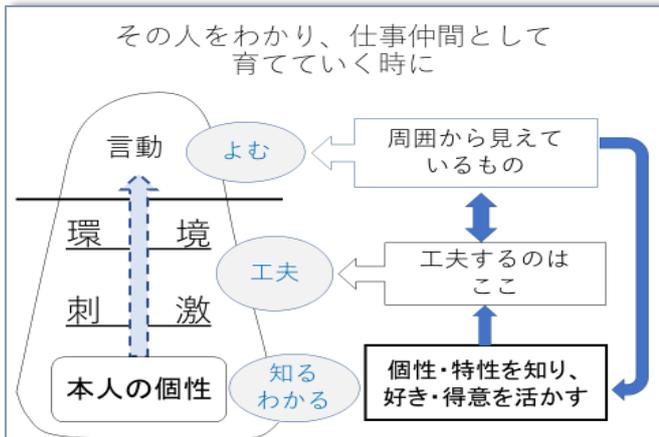
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入場前の検温・手指消毒・体調確認等、ご協力いただきありがとうございました。

今後の障がい者雇用セミナーも皆さまに安心してご参加いただけるよう努めてまいります。

担当者一同



令和2年度第3回企業セミナー事業報告



日 時：令和3年2月9日（火）

14：30～16：30

（オンラインにて実施）

参加者：31社 38名

講 演：「大人の発達障がい」

講 師：福岡市立心身障がい福祉センター

医療主幹 宮崎 千明 氏

2月9日に今年度、第3回の障がい者雇用セミナーを開催しました。

講師の宮崎先生は、主に障がい児の療育を専門としている医師です。今回のテーマである、発達障がいの方に対してどう対応してよいかわからないという相談を企業の方から受けることがありますが、講演の中で様々なヒントをいただきました。

本人の周りから見えていることに対処するだけでは解決しない。個性・特性を知った上で、職場の環境や刺激になるものを捉え、そこに工夫を加えることで本人の言動も変わると仰っていました。

今後の参考にしたいと思います。

《参加者の声》

- 身体の障がいとは異なり「目に見えない」生きづらさに対するの悩みや戸惑いに対し、一緒に働く仲間としてどう対応すべきかヒントをいただくことが出来ました。
- 発達障がいについての基礎的な考え方、接し方、理解が得られました。自分自身、考えさせられるところがあり、参加してよかったと思うセミナーでした。
- 個人的に勉強をしていた部分はありましたが社内で学ぶ機会がなかったため、自身の中でより理解が深まったと感じています。
- この度のセミナーでは、医学的に見た発達障がいの特徴だけでなく発達障がいの特徴を持った人とのかわり方を具体的にご説明いただき、一社会人として、とてもためになる内容でした。今後も現場での具体的なかわりに役立つ内容を多く取り扱っていただけると助かります。

（※アンケートより一部抜粋）

◆次回の障がい者雇用セミナーのご案内◆

「脳の病気で後遺症のある方の就労について」
福岡市立心身障がい福祉センター（あいあいセンター）
高次脳機能障がい支援センター

所長 和田 明美氏

配信日時：3月15日（月）～3月22日（月）

※動画配信のみです。

◆セミナーを終えて◆

緊急事態宣言の延長に伴い、会場開催が急遽オンラインでの開催となりました。初めてのオンラインセミナーで課題はいろいろ出てきましたが今後活かしていきたいと思っています。

令和2年度第4回障がい者雇用セミナー事業報告



配信期間：令和3年3月15日（火）

～3月22日（月）

参加者：38社 53名

講演内容：「脳の病気で後遺症のある方の就労について」

講師：福岡市立心身障がい福祉センター
高次脳機能障がい支援センター
所長 和田 明美氏

令和2年度第4回障がい者雇用セミナーを3月15日～3月22日の期間限定配信で実施しました。

「脳の病気で後遺症のある方の就労について」という、より身近に感じるテーマを取り上げました。

ある日突然人生が変わったら・・・

事故や病気で脳に損傷を受け、以前できていたことができなくなる、麻痺がある、見た目は変わらないのに以前と何かが違う。脳出血・脳梗塞・脳腫瘍など、脳の病気の後遺症とはどのようなものか？

就労する上で周囲はどのような配慮をしたらよいか？

そのような疑問を高次脳機能障がい支援センターの和田所長に分かりやすく解説いただきました。

誰にでも起こりえる病気だからこそ、障がいに対する理解とご本人へのフォロー体制を築くことが大切だと感じた講演でした。

《講演視聴者の声》

- この度のセミナーは、大変勉強になりました。いつでも、だれでもリスクがあること。また、色々な支援も学ぶことができました。
- 実際に脳の病気を発症した方と仕事をした経験があります。本人の働く意欲とできることを理解した上で仕事の提案をしましたが受け入れてもらうまでに時間がかかりました。高次機能障がいという障がいの理解はできましたが雇用し続ける難しさを感じました。

高次脳機能障害の方の仕事

○うまくいきやすい

- 定型業務
- 余裕を持って取り組める
- やったことが形に残る
- ひとつずつ作業できる
- 手順書があるor誰かが適宜指示できる
- 少しのミスなら許されるor誰かが適宜確認できる

×失敗しやすい

- 毎回違う、イレギュラー
- スピードを求められる
- 形に残らない
- 同時処理
- 手順書がない&自分で段取りや手順を考える
- 100%完璧が求められる&誰も確認できない

《令和2年度4回障がい者雇用セミナーを終えて・・・》

今年度の障がい者雇用セミナーはコロナ禍の中での開催となりました。参加人数の限定や会場開催をオンライン開催にするなど変更を余儀なくされましたが予定通り4回実施することができました。

第4回障がい者雇用セミナーは録画による動画配信で実施、手探りの状態での準備、開催でした。

アンケートには今回のように動画配信での開催を希望されている方が多く見受けられました。

ニューノーマルが叫ばれる昨今、今後も皆様のニーズを聞きながら障がい者雇用セミナーの企画・開催に臨みたいと思います。